

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3290400088		
法人名	有限会社 伊野本陣		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	島根県出雲市美野町504 (電話) 0853-67-9181		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成 19年 12月 18日	評価確定日	平成 20年 1月31日

## 【情報提供票より】(H19年 12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 2月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	有( 円) <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター、きさ内科皮膚科クリニック、島田歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

江戸時代の本陣宿だった建物を増改築し、小規模多機能型居宅介護、認知症デイサービスを一体的に運営している。建物周辺の敷地もひろく、雑草小屋や利用者用の畑もありゆったりとした環境である。利用者の思いを大切に、それまでの生活スタイルを尊重して支援していく方針がある。散歩やドライブ、買物、帰宅など個別の希望に応じるようにしている。開設して半年あまりでまだ軌道にのっていない部分も多いが、同業者連絡会の研修に参加したり、先進ホームへ実習派遣するなどサービス内容の充実につなげようと職員育成に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>(開設1年未満で、今回が初回の外部評価)</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設後、早い時期から自己評価に取り組んでいる。今回の自己評価は残業して職員全員で話し合っている。これまで日々の支援のなかで課題があったものについては、都度話し合っている。具体的な改善への取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域との関係調整等で遅れたが、12月13日第1回の会議を小規模多機能、デイサービス合同で開催している。市介護保険課、地域包括支援センター、利用者、近隣住民の参加があった。市からのアドバイスや利用者や近隣の人とで話が弾むなどざっくばらんな意見交換があり、よい雰囲気の家となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時を中心に意見交換できるよう配慮している。家族へのお便りや広報紙にはまだ取り組んでいない。ホーム独自で家族アンケートを実施し、意見要望の把握に努めている。アンケート結果を集計、検討して運営への反映を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>野菜を届けてくれる人、ボランティアとして気軽に来て話し相手や活動をしてくれる人、保育園児の来訪等少しづつ交流が広がっている。JA祭り等地域の催しへの参加や伊野本陣まつりを開催しての交流を図っている。美容院、商店など近所との付き合いを大切にしている。来年度から広報紙発行を予定している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設の小規模多機能やデイサービスと一体となって地域での暮らしを支えようと、経営理念「安心と尊厳ある生活を営むことの支援」、ケア理念「共に喜び、共に楽しみ、共に笑って、共に過ごす」を掲げている。開設して半年あまり経過し、近隣地域に理解してもらえるよう努力している。	○	地域住民との交流の下で支援していくことを意識できるようにグループホームとしての理念についても話し合ってみてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に木製プレートでわかりやすく掲示し、利用者、職員、家族、来訪者が確認できるようにしている。職員は、毎日の申し送り時にケア理念を復唱している。	○	毎日ケア理念を復唱しているが、日々理念を意識し、認知症の人の主体性と尊厳のあり方等、ケアの質の向上に結びつくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	野菜を届けてくれる人、ボランティアとして気軽に来て話し相手や活動をしてくれる人、保育園児の来訪等少しずつ交流が広がっている。JA祭り等地域の催しへの参加や伊野本陣まつりを開催して交流を図っている。美容院、商店など近所との付き合いを大切にしている。来年度から広報紙発行を予定している。	○	広報紙で事業所紹介をしたり、利用者と近隣地域とのふれあいの機会を大切にしながら、ホームが理解されるよう取り組んでほしい。また、認知症についての理解や援助の仕方、介護予防等について事業所の力を活かした地域貢献にも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後、早い時期から自己評価に取り組んでいる。今回の自己評価は残業して職員全員で話し合っている。これまで日々の支援のなかで課題があったものについては、都度話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との関係調整等で遅れたが、12月13日第1回の会議を小規模多機能、デイサービス合同で開催している。市介護保険課、地域包括支援センター、利用者、近隣住民の参加があった。市からのアドバイスや利用者と近隣の人とで話が弾むなどざっくばらんな意見交換があり、よい雰囲気の家となっている。	○	外部評価の報告、地域交流、防災についての相談など双方向的な会議となるよう期待したい。家族が参加しやすいように次回の開催日時を検討中であり、行政の理解も得ながら充実に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当課とは、施設長を中心に都度相談し、連携をはかっている。出雲市認知症グループホーム連絡協議会等に参加し、行政と共に地域のケアのレベルアップを図るよう協力体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要よっての電話連絡はしているが、利用料請求、金銭報告は事務担当が行っており、担当スタッフからのお便りを同封する等の配慮はされていない。広報誌はまだなく、来年度から発行を予定している。来所の少ない家族と話し合いをし、本人の思いを伝え、訪問をお願いしている。	○	家族へのお便りは安心と信頼につながるので、利用料請求や金銭報告に合わせて担当や本人の言葉を一言添えるなど工夫を試みてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を中心に意見交換できるよう配慮している。ホーム独自で家族アンケートを実施し、意見要望の把握に努めている。	○	運営推進会議に家族がなるべく多く出席できるよう配慮するなど苦情、要望等をホームへ伝えやすい機会をふやし、意見を反映できるような体制づくりに期待したい。家族アンケート結果を集計、検討して運営に反映させてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所時より職員の異動はない。併設の小規模多機能、デイサービス職員との連携、協力体制がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体でリスクマネジメント、身体拘束廃止、ホーム内研修と委員会をつくり職員のレベルアップに努めている。出雲市認知症グループホーム連絡協議会等への参加、先進グループホームへ実習に派遣するなど積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市認知症グループホーム連絡協議会が今まで2回開催され、研究発表には賞がでるなど意欲を高めるような取り組みをしている。しまね小規模ケア連絡会に加入し、情報交換や勉強会を行ったり、他府県の研修にも派遣してサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学を勧め、納得してからの入居を原則としている。自宅訪問し部屋の様子を見せてもらい、ホームで使用する私物の持ち込みや暮しについて丁寧に説明し少しでも早くなじめるよう配慮している。入居希望の待機者登録はせず、デイサービス、小規模多機能等の情報も提供し、状況に適した利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体の生活サイクルとしている。生活経験による干し柿づくりや干し大根づくりなど季節にあわせた活動にも取り組んでいる。食事の準備、洗濯物干し、取り入れ整頓、野菜、花づくり、広いホームの庭掃除、草取り等の作業にも一緒に取り組むこととしている。	○	本陣宿の雰囲気を生かした建物で落ち着いた暮らしが展開されているが、食事作りや家事など生活の中での協働を多くしたり、昔の道具や暮しについて語ってもらい、共に喜び支えあうことで心身の機能維持、回復につなげてほしい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話を聞いて計画に盛り込むようにしている。センター方式の暮しのシートなどを参考に基本情報記録を作っているが、情報の収集、記載等まだ十分でなく、活用されていない。	○	日頃の会話や家族に暮しの様子を聞き、基本情報を収集して、本人の好きなことやできることを暮らしの中に取り入れるようにしてほしい。生活記録は本人の言葉やスタッフとのやりとりをそのまま記録しているが、月1回ぐらい整理して、「思いや意向」の把握に活用していくことが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望、家族の希望、担当の考えを聞いて計画を作成している。本人、家族の希望や必要なケアをプランにあげているが、開設半年あまりであり、カンファレンスやモニタリング、家族への説明等、まだできていないケースもある。併設する小規模多機能型居宅介護の介護支援専門員との連携を図ることとしている。	○	本人、家族の希望や課題をどのように計画に反映させるかを話し合い、目標を達成するためのケアであることを明確にすることが望まれる。モニタリングや見直しなども小規模多機能型居宅介護の介護支援専門員との連携を図ってほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングをして定期的に、また状態が変わった場合の見直しをしているが、ケースによっては遅れることもある。パソコンによる生活記録の整理にとりかかっている。	○	状況が変わった時は、本人や家族の意向を聞き、関係者と話し合いながら変更や見直しにつなげていくことが望まれる。生活記録はプランの経過や実践についても記載し、モニタリングや見直しに活用しやすいようにマークをつけるなどの工夫、検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診送迎は基本的にはホームで行っている。利用者や家族の希望に応じ、外泊や帰宅などの送迎もしている。個々の希望に応じて柔軟に支援していく方針を持っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかっていた医療機関を継続できるようにしている。認知症専門医、協力医療機関等、相談しやすい関係を作っている。受診送迎はホームで行っているが、状況に変化がある場合は家族にも付き添ってもらい、一緒に医師の話を聞いてもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制はないが、重度化、終末期ケアに対応していく考えを持っている。入居後、車椅子利用となった人、食事介助が必要となった人等があるが、ホームでの生活が継続できるようにしている。併設の小規模多機能に看護師、栄養士、言語聴覚士有資格者がおり、相談、アドバイスが得られる。	○	重度化、終末期に向けた対応をしていく考えがあるので、体制を整えば医療連携体制について検討してみたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録類は事務所カウンター内で記録し、保管も気をつけている。排泄や入浴介助は本人の意向を尊重し、日中は同性介護をするようにしている。個人情報についての同意書を交わしていない。	○	契約、重要事項説明時に個人情報保護についても説明し、文書で同意を得ておくことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑や外出希望など本人の希望を尊重している。はっきり意思表示ができない人にもどちらかを選んでもらうなど本人の意思を確認するようにしている。自由は尊重されているが、身だしなみや暮しのメリハリとなる活動など、本人任せになっている面も伺えた。	○	ケアスタッフとしての専門性を発揮し、本人の気付きを促したり、やる気を起こしてもらいような係わり方も工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物に毎日出かけており、利用者も希望する人が同行している。朝食はパンかご飯を選べるようにしている。特別に栄養管理が必要となる人があり、調理、盛り付け、配膳、下膳は現在、職員が主に行っている。職員と一緒に弁当を食べることもあるが、介助や見守りが優先となり共に楽しむことができていない。	○	職員は弁当持参だが、「共に楽しむ」場面として、汁一品でも一緒に楽しめるよう、食事のありかたについて話し合ってみてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で毎日でも、夕食後でも入浴できるようにしている。車椅子の人は併設の小規模多機能型居宅介護のリフト付浴室を使用している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後、自室に戻る人が多く、個々、自由に過ごしている。畑仕事や洗濯物干し、お茶のあとの片付け、日めくり等あるが役割として決めるのではなく思い思いに取り組んでいる。つるし柿作りや干し大根など季節の楽しみも取り入れている。	○	一人ひとりの自由は尊重されているが、楽しみや生活の経験を活かせるメニューを増やし、「共に喜び、共に楽しみ、共に笑って、共に過ごす」場面の演出も期待したい。古い民具がたくさん残されているので暮しの知恵や昔話を語ってもらったり、回想療法の試みなど今後の取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、商店へ出かけたりしている。車椅子の人も近隣へ出るようにしている。自宅へ帰ったり食材の買物に一緒に行ったり喫茶店へ行ったり個別の希望に応じるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は小規模多機能型居宅介護と共用で日中は鍵はかけていない。玄関から道路にいたるまでゲートボール場や駐車場等あり、見通しもよく安全な設計になっている。建物裏には雉小屋や畑もあり建物周辺でも自由に過ごせるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いで避難訓練を行っている。何度か停電があり、業者がすぐ駆けつける体制がある。近隣の理解や協力体制は今後の課題としている。非常用備品として懐中電灯は用意しているが、備蓄等についてはまだ対応していない。	○	小規模多機能型居宅介護を併設しているので、特に夜間の避難方法や応援体制など、日頃からの連携が望まれる。運営推進会議などを活用し、近隣地域の理解、協力が得られるよう取り組んで欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿食について小規模多機能の管理栄養士と話し合っている。介助が必要な人もなるべく自分で食べられるように小さなおにぎりにしたり、刻んだり個々に合わせている。便秘予防に温野菜を多くするようにしている。摂取量が少なかったときは申し送りをしている。	○	摂取量が少ない時は間食で補充する等、きめ細やかな配慮が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本陣宿を改築した建物で、リビングは大きな梁や吹き抜けの天井、明り取りの窓などあり、広い空間になっている。食事テーブル、ソファ、和室など利用者が思い思いに過ごせるようになっているが、広くまた格式のある雰囲気のおかげで居間で寛いで過ごす人が少ない。	○	居間は広くソファコーナーがあり、大きなテレビ、昔の道具類など置かれているので、楽しく共に寛いで過ごせる団欒の場所として活用して欲しい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングに畳を敷き、ベッドを置いている。テレビや収納戸棚など自宅から持ってきている。衣類用ハンガースタンドを置き自分で服を管理し、おしゃれを楽しんでいる人もある。		